

# むさし野

No.35

事務局 〒350-0822 川越市山田912-7 石井方  
電話 049-225-2466  
E-mail:ishii.0525@r8.dion.ne.jp  
ホームページ: <http://www.longview.jp/musashino/>

## 『夢カード』で生きる意欲 今年も自然体で

大川成一（草加市）

新年を迎えて、自然体で臨めればと思いますので今年もよろしくお願ひします。

まだ経済的には、好転とは言い難いものなのであえて「目出度い」という単語は保留にしました。

時の区切りは年3回（暦年・年度・誕生日）と感じていますが、新年は気分が一新する思いです。それに、恒例となりつつある「オール法政新年を祝う会」では毎年、会のメンバーが1つのテーブルを占め、著名な芸能人の生出演があるので楽しみです。まさに、卒業してからも良かった法政大学と実感しています。

最近では自分史刊行を準備しているせいか、人生の総括やランク付けを意識しています。因みに「キネマ旬報」による映画史上のナンバーワンは邦画が「東京物語」で洋画が「ゴッドファーザー」（個人的には「生きる」と「2001年宇宙の旅」）でした。

また、大上段に構えた人生の成功指標は、「健康長寿・円満家庭・職業的名声・金融資産形成」と唱える学者がありますが、私はさらに「安眠・哄笑できる状態・同窓会を含む人脈形成」を追加したいと思います。特に、非営利的集団の同窓会は貴重と考えます。地域・年齢・職業などの壁が無い「法政むさし野会」は人材多彩と感じていますので、今後も自分なりの繋がりが継続できれば、人生の喜びの大きなひとつとさえ思えます。

今年は、バンクーバー冬季オリンピックや南アフリカでのワールドカップ、上海万博など大きなイベントが目白押しです。

夏には参議院選挙もあります。ただし、景気面では必ずしも好転するとは限らないものと考えています。景気対策が「息切れ」気味で秋以降に低迷する可能性があります。大胆予測をしている学者は、日経平均株価が年末から来年にかけて5千円割れという厳しい指摘もあり、私も「百年に1度」の危機が簡単に脱却できるはずもなく同調せざるを得ないものと考えています。しかし、「ピンチはチャンス」と言う考え方もあり、その時が「買い相場」と言う見方もありえます。

最近では、加齢と共に「力の抜きどころ」が永続きの秘訣のように思われ、実際には全力投球が毎回できないものです。それ故に、持久力を維持するためにも「自然体」が一番と痛感しています。また、年頭にあたって夢を描くのも明るい未来を希求する原動力と

なります。実は、私は自分の具体的な夢をメモした『夢カード』を財布に入れて持ち歩き、時間がある時に読み返しています。

例えば、海外でのロングステイ（長期滞在）とかを読んでみると生きる意欲がわいてくる気がします。また、新聞の元旦号は付録の記事が秀逸のものが多く、全国紙は全部を購入しています。「今年こそ」と気持ちのねじれを巻きなおす時期でもあります。新年は、いろいろな意味でスタートにしたいものです。

上の写真は長期滞在してみたいオーストラリアのケアンズ市を訪れたときのものです。





2009年2月20日、中国、遼寧省大連空港に5時間遅れで飛行機は着いた。成田からわずか3時間の飛行時間であるが、先の赴任地ベトナムとは180度違って、今まで経験したこともないパワーをその日に感じた。

この街に一歩足を踏み入れた時からなんとも言えないこの違和感は何なのだろう。外見的に日本人も中国人もあまり区別がつかないが。人が多過ぎることと、私の脳が甲高い中国語を拒否しているのだろうか(笑)。人口13億人といわれているが実際は14億人はいるのではないかといわれている。激しい競争社会の国である。

日本の文化の根幹の部分はこの大国、中国からの模倣から始まったとも言えるであろうが、ここ10年間の経済の発展はすさまじいものがある。世界各国の経済の目は今や中国へ集中しているのを、この大連でも感じる。昨年の米国発のリーマンショックでこの国も今、あまり経済は良くないようだが、政府はあまり物事を公表しないので、一般の人はあくまでも楽天的だ。

27年前に一度、瀋陽、隣の吉林省、長春を訪れた時に感じたあの素朴さを今の都会で探すのは難しい。高層ビルとアパートが建ち並ぶオフィス街、歩道でも我が物顔で走り回る車、喧騒と混沌が入り混じった世界である。最早表面的には後進国とはいえないのかも知れない。今以上に車の数も増えるであろうからやはりCO<sup>2</sup>の問題は地球規模でインドも含めて深刻な影響を及ぼすであろう。

私が要請を受けた大学は、まだ創立間もない私立の大学であった。

拠点の国立大学と一般の会社の共同出資で作られた私立大学が増えているそうだ。国立大学が出資元と聞いて中国人のしたたかさを感じてしまう。教科書もその国立大学出版のものを使うため、時には吹き出してしまうような表現が多々ある。日本語は他の外国語から比べると語彙が多いそうだ。特に副詞、擬音語、擬態語が豊富なため、習い始めて2年間半で日本語能力試験1級に合格する学生達に嬉しい驚きを感じる。

今回の私のミッションは「会話」「作文」「聴解」「日本概況」を日本語科とソフトウェアの学生達に教えることであった。

特に「日本概況」の中で微妙な日中の歴史に触れなくてはならない。近代史の部分では教えすぎる中国と教えなさ過ぎる日本との温度差を強く感じる。



学生達は、前もって日本人教師に失礼がないようにと厳しく言われているそうだ。授業の最後に「私の日本人観」と言うタイトルでレポートを書いてもらっている。もちろん「私は日本人が大嫌いです。」と言う内容のものもあり、興味深い。

大学生の生活は日本とはかなり違う。まず娯楽が非常に少ないし、学生達は学校内の寮に住み、学校側から厳しく管理されるので、常に、勉強をしなければならない。一般人の労働力があまっているので、勉強をしながらなかなかアルバイトもできない。

だが、若者達は底抜けに明るく元気である。まだ「教師」を敬うという風習があるようだ。ここに来てだいぶ学生達に助けられている。卒業生が初めてもらった給料で夕食を御馳走してくれた時は感激してしまった。

大連は世界で一番日本語を学ぶ人が多いといわれている。なんと日系企業が2200社ほどあるそうだ。各企業のトップは日本人でも中間の管理職は中国人なので、実態は中国企業とあまり変わらないのかもしれないが、「賄賂」を払わなくても採用されるだけまだ良いのかもしれない。賄賂が悪いことだと意識していないのだから厄介である。お金のない者、一族に力が無い者はやはり勉学で勝負し、海外を目指すのは当然なことであろう。

とてもこの国のことを一言では言い尽くすことは無理である。

一旦、火のついた経済の発展は止めようがないであろう。経済の発展が終わった国、日本とではとても比べようが無いのかもしれない。

国の大きさは26倍、民族は漢民族11億人のほかに少数民族が55だそうだ。

10か月しか住んでいないし、限られた世界での生活ではあるが、やはり、私にとってこの国は近くて遠い国であると感じた。

# 次回の勉強会 「考古学と西原大塚遺跡の発掘」

宮川幸佳さん（志木市）

2010（平成）年2月21日（日）

宮川さんに関しましては、そのご活躍の様子を会報『むさし野 30号』に寄稿頂きましたので記憶も新しいと思います。現在日本考古学協会会員として志木市の西原大塚遺跡の発掘に長く携わられておられます。専門は弥生時代後期～古墳時代全期の土器研究との事です。考古学は興味があっても、その中身まで踏み込む機会が少ない分野です。同じ当会の会員ですので初歩的な質問もできると思い、今から楽しみです。

日時： 2月21日（日） 14時00分～17時00分  
一部 考古学と西原大塚遺跡の発掘 14:00～15:30  
二部 茶話会 15:40～17:00

場所： さいたま市民会館うらわ 606号室

参加費用：500円（当日お支払下さい）

- \* ご参加の方は2010年2月10日までに、電話、FAX、Eメールなどで石井会長までお申し込みください。
- \* 役員の方は13:00～14:00まで役員会を行いますので、ご出席願います。



## 「奥の細道」を旅して（第2回）

鳥海美智子（さいたま市）

旧暦4月3日 黒羽に到着した芭蕉は16日までの14日間、黒羽に滞在した。これは「奥の細道」行程中、一番長い宿泊であった。

黒羽大関藩城代家老、浄法寺図書、高勝と弟鹿子畑豊明は若い頃江戸深川で芭蕉に俳譜を学び「桃雪」「翠桃」の俳号をもらっている。

雲巖寺は深川で参禅の教えを受けた仏頂和尚ゆかりの地である。古来、筑前の聖徳寺、越前の永平寺、紀州の興福寺と並んで禅宗の日本四大道場と称せられた。東京から日帰りできるこの寺院は建物が総かや葺きの大雄寺と共にぜひ、観光して頂きたい栃木の名勝地である。

金毛九尾の狐が化したと伝わる殺生石は今でも有毒ガスが出ており、周りには蝶、虫が死んでいた。

西行が歌をのこした遊行柳は田園の中ほどに大木となって立っていた。傍らには小川も流れ

道のべにしみずながる柳かげしばしとてこそ  
立ちどまりつれ（新古今集 西行法師）

の歌どおり、私たちが800年前に引き戻す空間がそこにはあった。

田一枚構えて立ち去る柳かな 芭蕉

奥の細道序文に「春立てる車の空に、白川の関越えんと」とあるように芭蕉は白河の関を訪ねることが目的のひとつであった。

古来より歌枕として多くの歌人に詠まれたこの地は、古代大和政権が蝦夷に対する前線基地で常陸の勿来の関、羽前の念珠ヶ関とともに五世紀頃に設置され、のちに交通検問の要所となって、奥州三古関ともいわれた。

芭蕉が訪れた頃には跡形もなく、天下の名君とうたわれた白河藩主、松平定信が種々の考証の結果、それまではっきりしなかった関跡を「関の森」と確定し、「古関蹟碑」が建てられたのは寛政12年（1800）であった。

現在でも落葉降り敷く深い森であり、時の経過を強く感じた。



与謝野蕪村「奥の細道図巻」より

### ◆あとがき◆

新聞記事の内容がコロコロ変わるのとは年末の所為ばかりではないようです。新年に「国に何かをしてもらう」ではなく「国は何をなすべきか」「私たちに何ができるか」をひとりひとりが真剣に考えるべき時期と思います。明治維新のように一部の人の国造りではなく、国民全体が希望を持って生活する、それが一番大切な事と考えます。今年も皆様の抱負をお聞かせください。夢ある一年になることを願っております。（鳥海）

